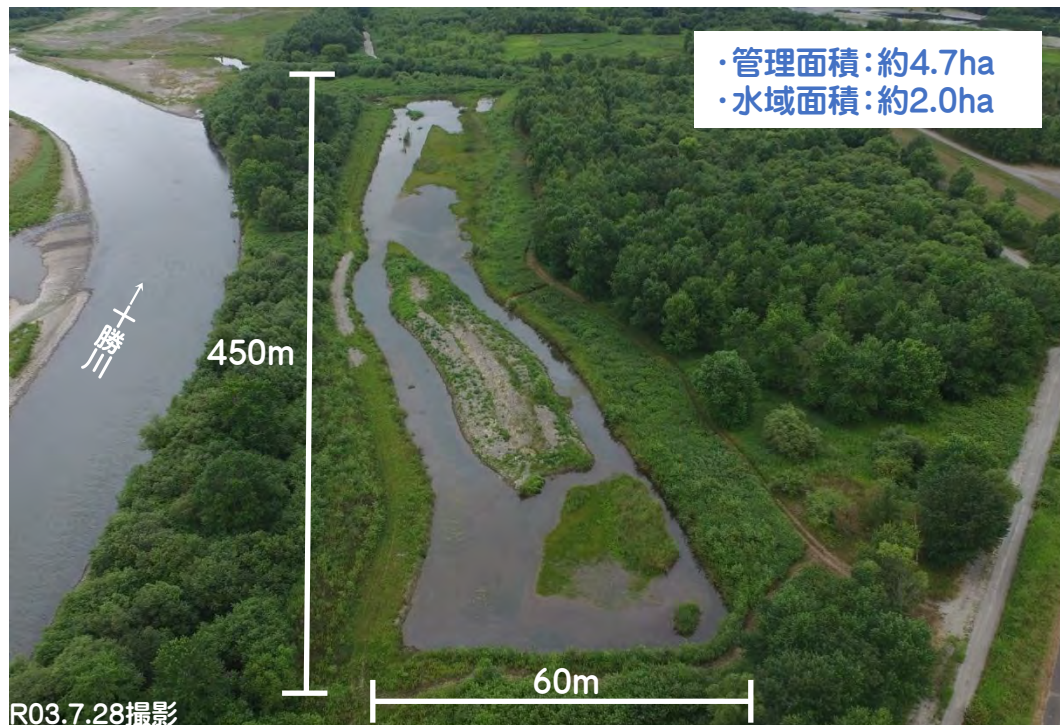


令和6年度 帯広農業高校 相生中島上流湿地 活動報告 🐮



十勝川相生中島上流湿地

●湿地の成り立ち



平成24年 (2012)

洪水の流下能力確保とヤナギの再樹林化防止を目的とした河川工事により湿地造成

平成25年 (2013)

現地調査と湿地環境づくり開始



農業高校との
活動始まる！
(令和6年で12年目)

平成28年 (2016)

台風によって土砂堆積し、水域面積が半減

平成29年 (2017)

水域面積の拡大と湿地環境維持のため重機を使用した環境整備を開始

令和 2年 (2020)

SDGsの取組みを開始

- ・ 気候変動に具体的な対策を
- ・ 陸の豊かさを守ろう
- ・ パートナーシップで目標を達成しよう

農業高校の調査

●これまでの経緯

平成25年(2013)

7月 完成後の上流湿地を見学
9月 実験:蛇力ゴの設置・水生生物採取

平成26年(2014)

7月 コシ類の移植(植物の移植による生物の生息環境創出)
10月 魚類調査(定量的調査)

～

令和 3年(2021)

7月 魚類調査(定量的調査)
10月 魚類調査(定量的調査)

令和 4年(2022)

7月 水生動物調査(定性的(生物相)調査)
10月 魚類調査(定量的調査)

～

令和 6年(2024)

6月 水生動物調査(定性的(生物相)調査)
10月 魚類調査(定量的調査)

この年から
魚類調査がスタート

トンボ班、植物班、魚類班に分
かれて湿地に住む生き物を幅広
く調査

R06事前学習



令和6年度の調査①夏期：定性的調査

●調査日：令和6年(2024年)6月22日 ●調査指導：(株)福田水文センター

●調査分野：水生動物(タモ網)・トンボ類(目視・捕虫網)・植物(目視)

水生動物(魚類・底生動物)



魚 類：7種(重要種2種)
底生動物：6種(重要種2種)
※ヤゴを含めず

トンボ類



10種(重要種1種)
※ヤゴを含む

植物(水辺の植物)



水辺の植物：5種

令和6年度の調査①夏期：定性的調査

相生中島上流湿地で確認した魚類(R6年6月22日)



ウグイ属の1種



モツゴ
北海道BL(2010):国内外来種(A3)



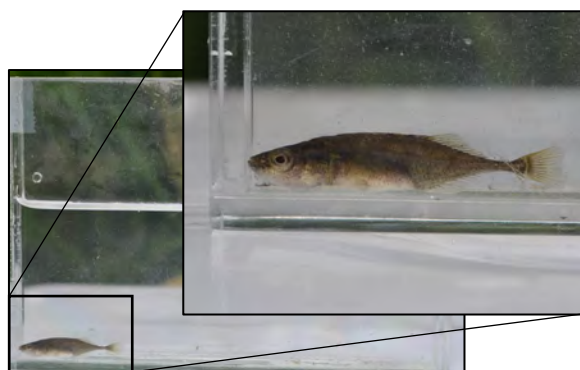
ドジョウ属の1種
(ドジョウ又はキタドジョウ)



エゾホトケドジョウ
環境省RL(2020):絶滅危惧IB類(EN)
北海道RL(2018):絶滅危惧IB類(En)



イトヨ



トミヨ



ジュズカケハゼ
環境省RL(2020):準絶滅危惧(NT)

合計:7種

※赤字:重要種、レッドリストカテゴリー 青字:外来種、ブルーリストカテゴリー

令和6年度の調査①夏期：定性的調査

相生中島上流湿地で確認した底生動物(R6年6月22日)



オオコオイムシ
北海道RL(2001):希少種(R)



ユスリカの1種



写真なし

ミズカマキリ



ヒメミズカマキリ



ゲンゴロウ科の一種(幼虫)



モノアラガイ
環境省RL(2020):準絶滅危惧 (NT)

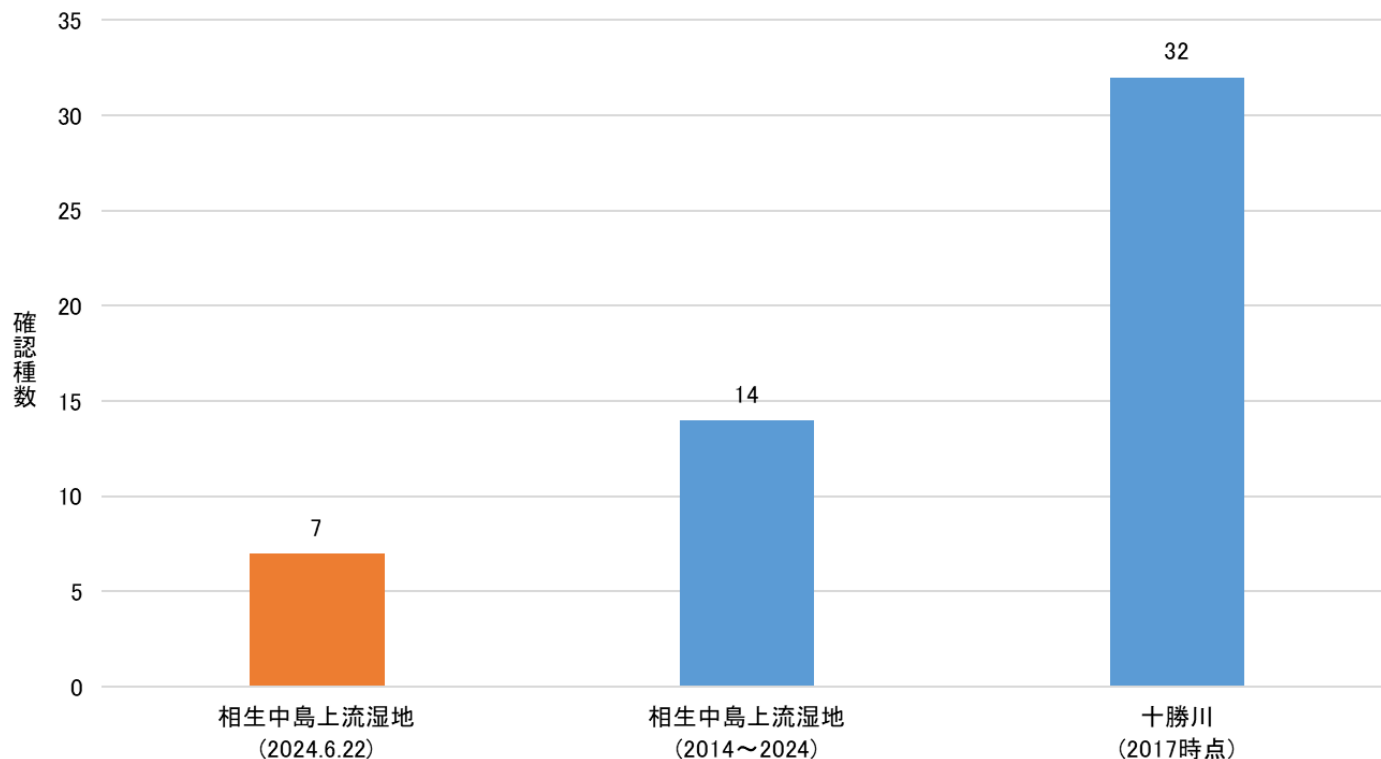
合計:6種

※赤字:重要種、レッドリストカテゴリー

令和6年度の調査①夏期：定性的調査

相生中島上流湿地で確認した魚類

地区等	種類数	出典
相生中島上流湿地(2024.6.22)	7種類	十勝川中流部市民協働会議
相生中島上流湿地(2014年～2024年)	14種類	十勝川中流部市民協働会議
十勝川(2017年時点)	32種類	北海道開発局



令和6年度の調査①夏期：定性的調査

相生中島上流湿地で確認したトンボ類(R6年6月22日)



キタイトンボ



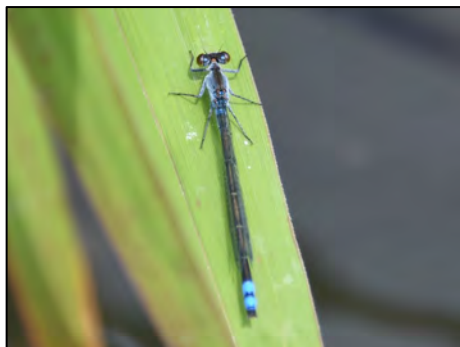
マンシュウイトンボ
北海道RL(2001):希少種(R)



ヨツボシトンボ



エゾイトンボ



クロイトンボ



ギンヤンマ



シオカラトンボ

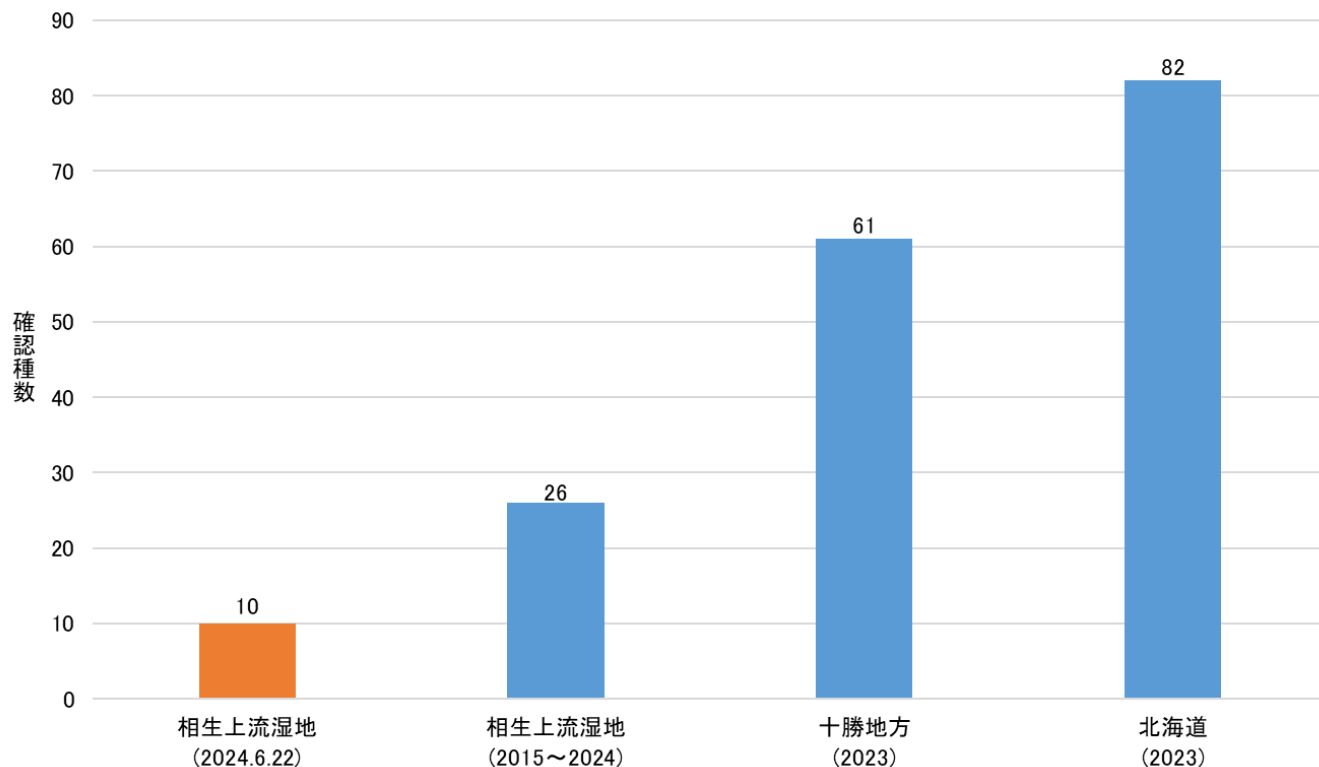
合計:10種

※赤字:重要種、レッドリストカテゴリー

令和6年度の調査①夏期：定性的調査

相生中島上流湿地で確認したトンボ類

地区等	種類数	出典
相生中島上流湿地(2024.6.22)	10種類	十勝川中流部市民協働会議
相生中島上流湿地(2015年～2024年)	26種類	十勝川中流部市民協働会議
十勝地方(2023年時点)	61種類	北海道トンボ研究会報
北海道(2023年時点)	82種類	北海道トンボ研究会報



令和6年度の調査①夏期：定性的調査

相生中島上流湿地で確認した水辺の植物(R6年6月22日)



サジオモダカ



ホソバミズヒキモ



アブラガヤの仲間



ガマ



フトイ

合計：5種

令和6年度の調査②秋期：定量的調査

●調査日：令和6年(2024年)10月5日

●調査指導：(株)福田水文センター



調査状況(各5m×5m=25m²で採捕)



計測状況



令和6年度の調査②秋期：定量的調査

相生中島上流湿地秋期魚類調査結果(2024年10月5日)

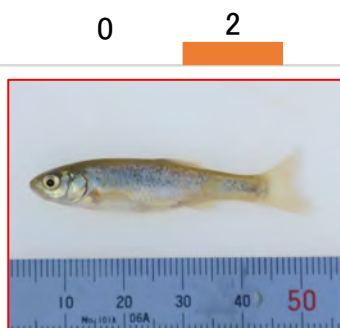
合計149個体確認

(中央部・岸際部5m×5m=25m² 合計50m²)

■ : 中央部
■ : 岸際部

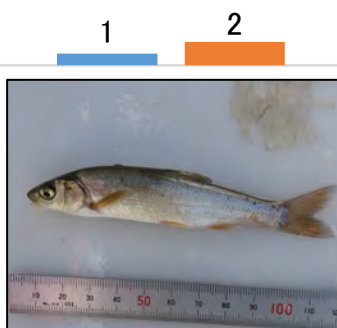
2024年
初確認

2023年
初確認

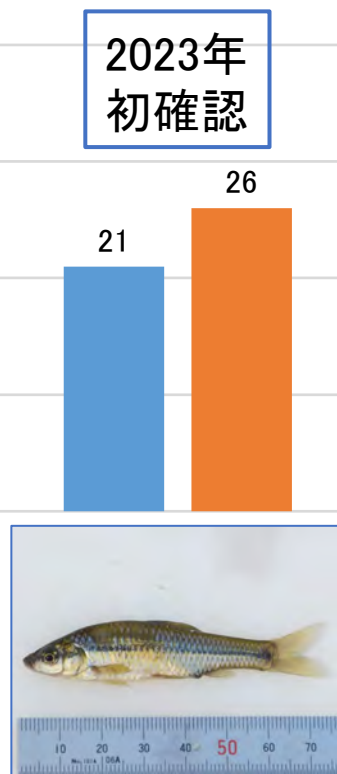


ヤチウグイ

環境省RL(2020):準絶滅危惧(NT)
北海道RL(2018):準絶滅危惧(Nt)

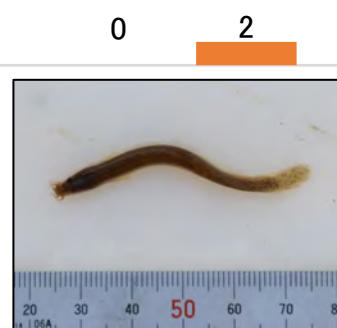


ウグイ属の一種



モツゴ

北海道BL(2010):国内外来種(A3)

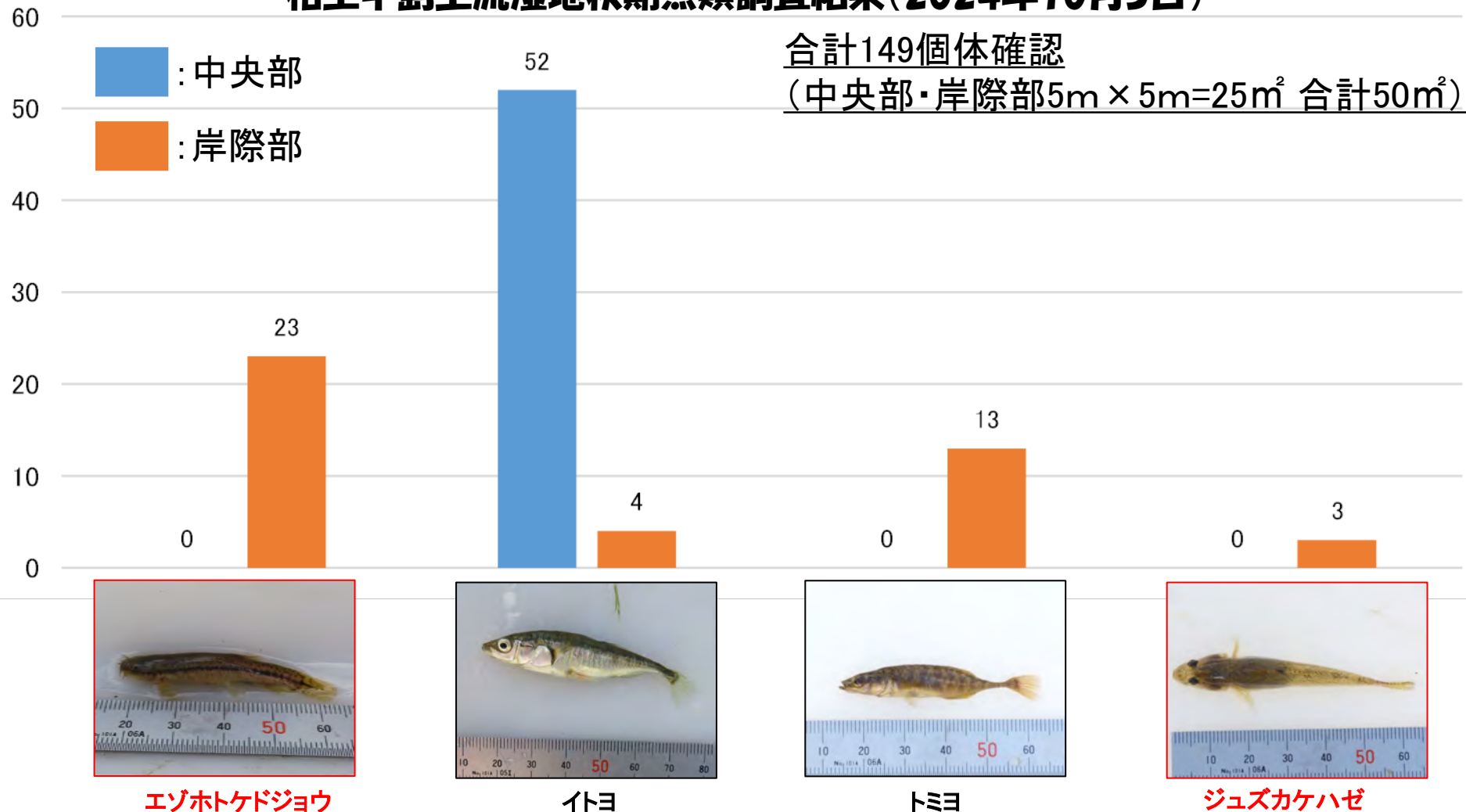


ドジョウ属の一種

(ドジョウ又はキタドジョウ)

令和6年度の調査②秋期：定量的調査

相生中島上流湿地秋期魚類調査結果(2024年10月5日)



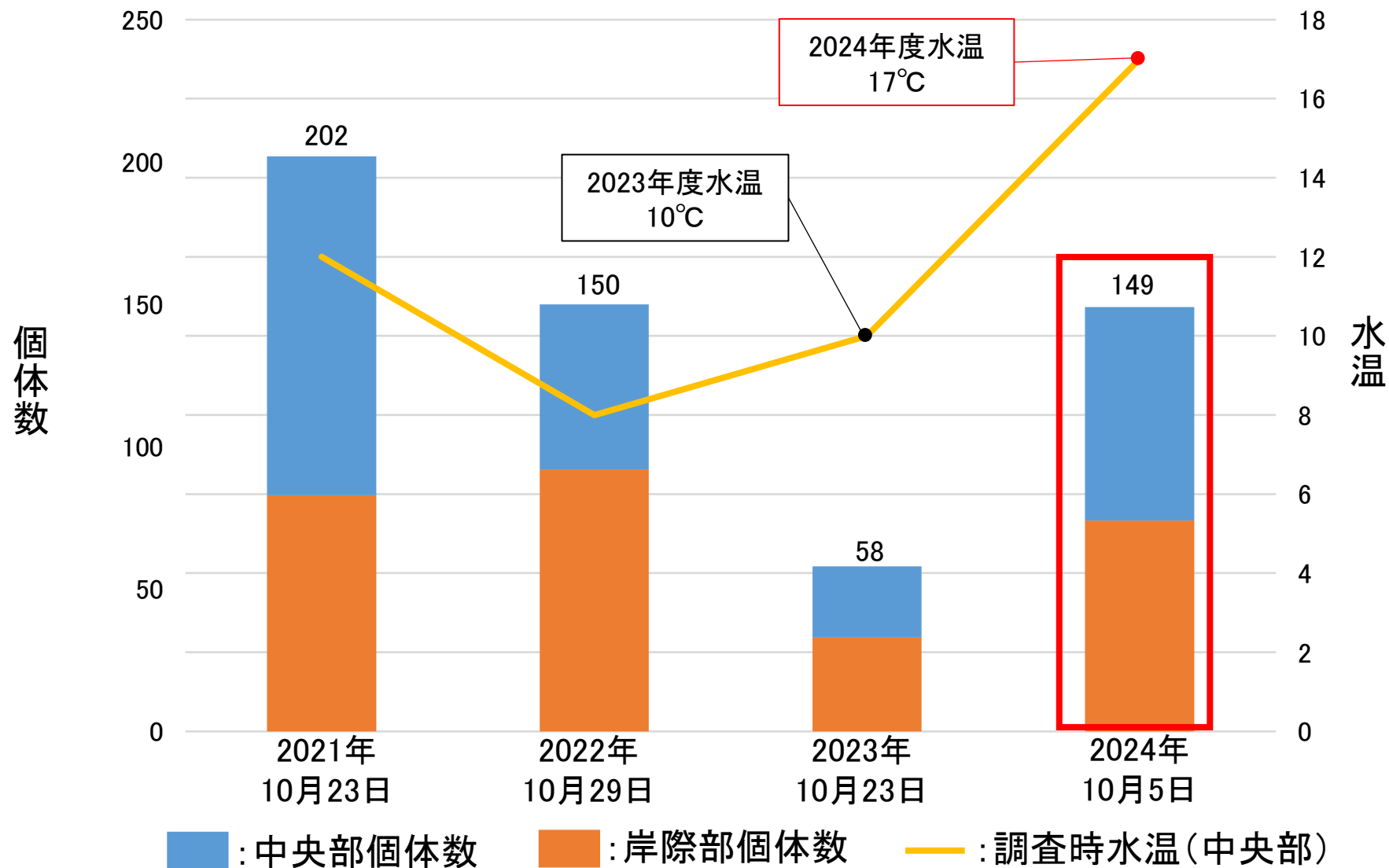
環境省RL(2020): 絶滅危惧IB類(EN)
北海道RL(2018): 絶滅危惧IB類(En)

環境省RL(2020): 準絶滅危惧(NT)

※赤字: 重要種、レッドリストカテゴリー 12

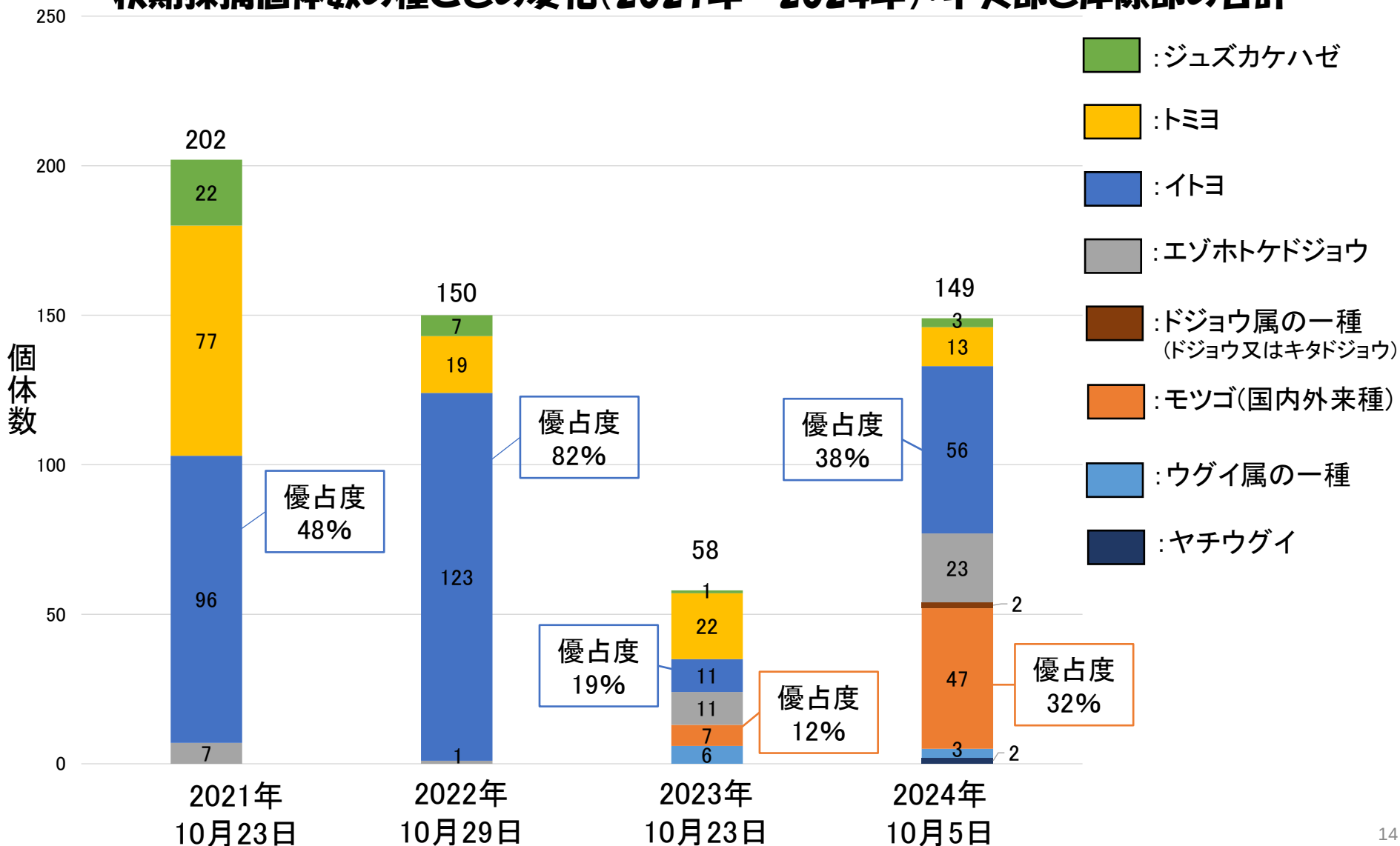
令和6年度の調査②秋期：定量的調査

秋期魚類個体数と秋期調査時水温の変化(2021年～2024年)



令和6年度の調査②秋期：定量的調査

秋期採捕個体数の種ごとの変化(2021年～2024年)：中央部と岸際部の合計



令和6年度の調査②秋期：定量的調査

秋期結果

- 採捕個体数(合計149個体)のうち、モツゴ、イトヨ、エゾホトケドジョウが上位を占めた。
- 昨年度結果と比較しイトヨ、モツゴの採捕個体数が大きく増加した。
- 秋期調査時の水温が過去最高の17℃であった。
- 過年度調査と比較し、2023年、2024年調査結果では優占種に変化が見られた
 - 2021年優占種(上位3種)
 - イトヨ(48%) トミヨ(38%) ジュズカケハゼ(11%)
 - 2022年優占種(上位3種)
 - イトヨ(82%) トミヨ(12%) ジュズカケハゼ(5%)
 - 2023年優占種(上位3種)
 - トミヨ(38%) エゾホトケドジョウ(19%) イトヨ(19%)
 - 2024年優占種(上位3種)
 - イトヨ(38%) **モツゴ**(32%) エゾホトケドジョウ(15%)

令和6年度の調査②秋期：定量的調査

参考情報

• モツゴ

- 産卵時期: 4～7月
- 生存水温: 2～30℃
- エサ: 底生動物、水草、ユスリカの幼虫等



• イトヨ

- 産卵期: 4～6月
- 適水温: 13～18℃
- エサ: 水生昆虫、魚卵、小魚等



• トミヨ

- 産卵時期: 4～6月
- 適水温: 15～20℃
- エサ: 水生昆虫、魚卵、小魚等



• エゾホトケドジョウ

- 産卵期: 5月下旬～7月
- 適水温: 20℃前後
- エサ: 底生動物等



参考Webサイト:「十勝の川の生き物たち」<https://www.hkd.mlit.go.jp/ob/tisui/kds/pamphlet/ikimono/ctl1r0000004qdt.html>

「北海道外来種データベース」<http://blueist.pref.hokkaido.lg.jp/db/detail.php?k=05&cd=28>

参考文献: 日下部誠. “イトヨ” 比較内分泌学 42.158 (2016): 43-45. | 長津恵, et al. “絶滅危惧種エゾホトケドジョウ *Lefua nikkonis* (Jordan and Fowler) の分布と生息環境 (保全情報).” 保全生態学研究 12.1 (2007): 60-65. | 公益社団法人日本動物園水族館協会. “適正施設ガイドライン【シナイモツゴ *Pseudorasbora pumila*】.” 適正施設ガイドライン(2020). | 公益社団法人日本動物園水族館協会. “適正施設ガイドライン【ウシモツゴ *Pseudorasbora pugnax*】.” 適正施設ガイドライン(2020). | 神宮字寛, et al. “小規模湧泉におけるイバラトミヨの生息と保全.” 応用生態工学 2.2 (1999): 191-198.